

課題

大同メタルと地球環境のミライにつながる、 サステナブルな事業所を提案せよ

大同メタル工業は多種多様な産業分野の回転を支える世界で唯一の「総合すべり軸受メーカー」です。当社は主力の生産拠点として犬山市に事業所を構え、環境に最大限配慮しながら生産活動を続けています。持続可能な自然共生社会の実現に貢献し、地域の方や従業員にとってミライにつながるサステナブルな事業所を実現するため、新たなアクションプランを検討します。

解決策

「工場」×「自然」×「地域」のネットワーク ～犬山の地からつながりを拡充～

課題解決の方向性 【考え方】

大同メタル工業の技術力、立地や既存の地域への取組状況に着目し、従業員や地域住民にとって憩いの場となり、多くの生物が訪れるビオトープの設置を提案します。また、ビオトープを活用したイベントを催し、参加者が各自でも自然共生の取組を上げられる企画を考えました。

地域全体をまきこんだ 自然との共生社会の新しいカタチ

01

ビオトープの設置

従業員や地域住民、
生き物の憩いや交流の場を提供。

04

エコロジカル ネットワークの形成

大同メタル工業が中心となり
イベント参加者とビオトープを
つなげていく。



02

大同メタル工業の 技術を活用

技術力を応用して
水資源の再利用を図る。

03

イベントでの交流

地域住民や次代を担う
子どもたちにSDGsの
イベントを開催する。

持続可能な社会へのポイント

- [01] ビオトープの設置によって、水と炭素の循環や交流・癒しの場を提供する。
- [02] 自然との共生を目指した活動を社会に広く知ってもらうことで、投資や長期的な経営基盤の強化という好循環につなげる。
- [03] イベントでの体験を通じて自然と社会のかかわりについて理解し、考えを深める機会を増やす。
- [04] 大同メタル工業を中心としたネットワークの形成により、犬山市全体の生態系を守り、広げていく。



研究員メッセージ

「サステナブル」な事業所とは何か、研究員で議論し、今回の提案につなげました。ビオトープとしての場所を大切にしつつも、その場所に留まることなく、エコロジカルネットワークの拠点、そして地域のつながりの拠点となる場所をイメージして考えました。ツアーやイベントなどの体験を伴った学習が、多くの人に持続可能な社会への取組を身近なものとして考え、行動につなげる機会となったら嬉しいです。

チーム 大同メタル

名古屋大学 3年 草間美咲
愛知県立大学 4年 築山誠大
名古屋経済大学 2年 山田昇汰

名古屋市立大学 2年 澤井優希
東海学園大学 1年 早川大貴

ファシリ テーター

フィットラボ代表・
環境カウンセラー
松本イズミ

